

3. 事業実施計画書

(1) 展覧会について

当グループは平成23年度～25年度の3年間、芦屋市立美術博物館の使命をふまえ、今まで以上に魅力ある展覧会の開催に努めてまいりました。

まず、「市の貴重な財産であるコレクションを適切に理解し、わかりやすく市民に伝えること」を第一命題として、指定管理者としての運営期間の中で、時間をかけて芦屋文化について調査・研究を重ね、「継承し、次世代へつなげ、交流する」という使命を達成するために毎年コレクションを展示してまいりました。

この実績と成果は他の運営団体には持ちえないものであり、今後、「芦屋の文化遺産の継承」をなによりも重要な使命として掲げる当グループが、更に発展させた研究成果を積み重ね、充実した展覧会を実施してまいります。

平成23年度～25年度 実績例

※美術部門では、「具体美術協会」の作品のシリーズ展開(『具体誕生』『没後40年 吉原治良』『具体躍進』『具体円熟/終焉(※平成25年1月11日～)』、芦屋ゆかりの画家である小出櫓重を中心とした作家の作品の継続的展示

※歴史部門では、「昔の暮らし」や、芦屋の歴史について古代・中世・近世・近代までを継続的なテーマのもとで展示

また、一方で、より幅広く優れた作品の価値を市民に体感していただく機会を提供するために、様々なテーマでの企画展を実施し、幅広い来館者層の獲得に努めました。今後は、より多くの利用者を獲得し、より多くの利用者に文化芸術に触れていただく機会を提供するために、蓄積したアンケートデータや様々な視点からの意見をもとにしたより発展的に視野を広げた展覧会に挑戦してまいります。

平成23年度～25年度 実績例

※3年間継続的に実施した『アートピクニック』シリーズでは、アウトサイダーアートあるいはアールブリュットと呼ばれる障がいを持つとされる人や正規の美術教育を受けていない表現者の作品を中心に現代の美術の動向を紹介

※2年目以降、他館との共催により、教科書で見えるような「ほんものの」作品に出会える機会の創出-「浮世絵」展を開催

※3年目には当グループのネットワークにより出版社の特別協力を得て、「学習雑誌にみるこどもの歴史」展を開催

以上の実績にもとに、下記の3つの方針に基づいて展覧会の開催に努めてまいります。



「芦屋市立美術博物館」ならではの貴重なコレクション研究をより深化させ、市民にわかりやすく伝える展覧会を開催します。



外部との連携を最大限に活かし、芦屋の文化について広い視野を養うことができる展覧会に挑戦します。



3年間の運営実績から得た来館者データから検討を重ね、幅広い来館者層に受け入れられる展覧会を開催します。

3. 事業実施計画書

美術部門

- 特徴的な収蔵品の一つである「具体美術協会」会員による作品は、この3年間で「通史」を示した実績を踏まえ、今後の5年間では、「具体」のみにフォーカスするのではなく、近代の美術の中のひとつの位置づけとして「具体」を捉えた展覧会を企画しております。そのために作品、歴史の中の位置づけに対する理解を深めるとともに、この時代との関連性の中での他の芸術活動にも焦点を当て、「具体の国際性」「前衛陶芸」「デモクラート美術家協会展」「会ヴァリエテ」「具体の野外性」をテーマとした展覧会を開催する予定です。
- 平成23年度より開催した「アートピクニック」展シリーズでは、アウトサイダーアートあるいはアールブリュットと呼ばれる障がいを持つとされる人や正規の美術教育を受けていない表現者の作品を中心に現代の美術の動向を紹介しました。今後の5年間では、定着しつつある「アートピクニック」という名称はそのまま受け継ぎ、アウトサイダーアートという枠に捉われず、現代に生み出されている美術の動向を探りつつ、「美術で豊かな生活を感じる展覧会」を示すワードとして再定義し、来館者が生活の中で楽しみを見つけることができる「アートピクニック」シリーズを、発展させてまいります。
- また、「芦屋文化」の再考察を図るため、神戸、芦屋、西宮、伊丹、尼崎といった阪神間の洋画壇の動向を紹介する「阪神間洋画壇物語」(仮称)を2年にわたり開催する予定です。この際、阪神間の美術館・博物館と「連携」した展覧会として開催するため、現在準備をしております。
- さらに、4年目にあたる平成29年度は、より多くの市民が文化芸術に触れていただく機会を提供するため大規模な巡回展の開催を提案いたしますが、具体案につきましては、十分に検討を重ねたいと考えております。また、開館 25 周年を迎える平成 28 年度は、記念事業としての事業の位置づけについて検討しております。

歴史部門

- この3年間、歴史部門においては、芦屋の歴史について古代・中世・近世・近代までを継続的なテーマで開催し、仏教や神道の宗教美術など、これまでに無かった新たなテーマを取り上げるとともに、地域文化を大切にするための繋がりや伝承を発信する場として地域の人々に認識されるようになりました。引き続き、市の教育委員会とは定期的なミーティングの場を持ち、調査・研究・教育普及など様々な面で、より強固な連携を保ちたいと考えております。
- 今後の5年間は、『歴史資料展示室』を有効活用し、新たな切り口で、前年度から継続開催する「芦屋の歴史と文化財」展を年に3回、テーマごとに部分的に入れ替えを行い、いつ来ても利用者が楽しめるような、バラエティーに富んだ企画を実施します。
- 現在、「物語と昔がたり」「徳本上人の奇跡」「新たな発掘成果」「芦屋と女性」「美人画」「芦屋におはします ほとけさま 1・2」「大絵馬展」「写された芦屋」「芦屋の建築」「描かれた芦屋」というテーマを準備中です。
- 企画展については、「浮世絵」展の開催時、『色が鮮やかで美しかった』『もつといろいろな作品を見たかった』という声を市民から多数いただいた「片岡家所蔵浮世絵」を初年度に点数を増やし規模を拡大して開催する予定です。また、これまで芦屋市で大々的に取り上げられることの無かった、市内の寺社のご宝物を紹介する「仏教」や「神道」の美術や、「子どもと学年誌」展を予定しております。

3. 事業実施計画書

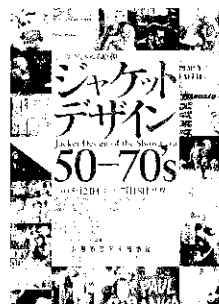
【参考資料】平成23年度～平成25年度 展覧会実績について

当館のコレクション展示に加えて、現代美術等独自の企画展にも挑戦し、新たな来館者層の開拓を行ってまいりました。また、展覧会関連事業として、毎回行われるギャラリートークはもちろん、各種講演会やワークショップ、制作現場の見学会など、多様な企画を実施いたしました。

期間	展覧会名	関連事業名	来館者数
4/2 5/8 (33日間)	・蒼山日菜レース切り絵展 -ラ・コンタンプラシオン-沈思黙考 ・仲田好江 コレクション展 ・神戸紅茶展	・神戸紅茶セミナー ・ピアノ演奏会「春の花の咲くころに ～仲田好江を偲んで～」	2,530人
5/21 7/18 (51日間)	・ジャケットデザイン 50-70's -ジャケットでめぐる昭和- ・コレクション展Ⅱ	・アナログレコードコンサート	2,938人
8/6 10/2 (52日間)	・アートピクニック-美術をたのしむ ・三田谷治療教育院のあゆみ展	・ダンスパフォーマンス「うまれる」 ・ワークショップ「絵を見て話そう こどものてつがくアトリエ」 ・アートトーク「みんなの芸術-作品 が生まれる現場からのお話」 ・講演会「アートと宇宙」 他	3,681人
10/22 12/11 (44日間)	・コレクション展Ⅲ -Part1 具体誕生- -Part2 美術の中の風景散歩 ・芦屋の遺跡とその出土品展	・オープニング・コンサート 「挑戦と情景 記憶と心に寄せて」 ・ギャラリートーク ・写真撮影会「芦屋の写真散策」 ・ターナー色彩株式会社工場 見学会 他	3,775人
1/4 2/19 (41日間)	・津高和一 -ねこがみた現代美術展 ・阪神・淡路大震災回顧展 ・昔の暮らし展 -家族愛とは何か?-	・モーニング・コンサート ・ギャラリートーク ・防災・減災セミナー 「芦屋市の防災を考えよう」	2,625人
2/25 3/10 (13日間)	・第29回 芦屋市造形教育展	・ギャラリートーク ・講座「家をまもる神さま仏さま」 ・見学会「打出周辺の寺社を歩く」	4,449人
3/17 3/25 (8日間)	・第61回 芦屋市展	・授賞式 ・講評会(写真) ・講評会(平面)	1,322人



【蒼山日菜レース切り絵展】



【ジャケットデザイン 50-70's ジャケットでめぐる昭和】



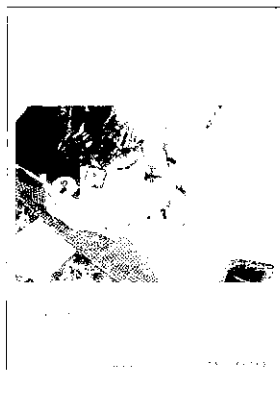
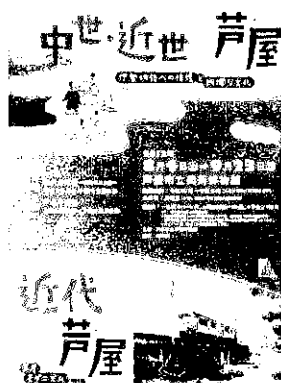
アートピクニック

【アートピクニック
-美術をたのしむ】

3. 事業実施計画書

平成 24 年度

期間	展覧会名	関連事業名	来館者数
4/14 5/27 (38日間)	没後 40 年 吉原 治良 展	・ギャラリートーク ・ワークショップ	1,612 人
6/9 7/29 (44日間)	アートピクニック vol.2 呼吸する美術 breathing art 展	・オープニングパーティ ・講演会「欧米でも注目される日本のアール・ブリュット、その作品と作家の全容」 ・わくわくバスツアー 等	2,203 人
8/4 9/23 (44日間) ※「古代」は 4/14～	・中世・近世の芦屋 展 ・近代の芦屋 展 ・古代の芦屋―珠玉の出土品―展	・ギャラリートーク ・芦屋歴史マップ作り ・芦屋川と近代芦屋	1,862 人
10/6 10/21 (14日間)	・芦屋写真展	—	2,990 人
11/3 12/16 (38日間)	・芦屋巡礼の路―信仰のかたち―展	・ギャラリートーク ・伝統こども能楽体験教室 ・見学会「芦屋の寺社巡礼」	956 人
1/5 2/17 (38日間)	・The Collection 具体躍進 展 ・The Collection 芦屋の画塾 芦屋のアトリエ 展	・アトリエ・ワークショップ 「あじのひらき」 ・芦屋のモダニズム ・ギャラリートーク	1,810 人
2/23 3/3 (8日間) ※「昔」は 1/5～	・第 30 回 芦屋市造形教育展 ・昔の暮らし 飲む・食べる ―昔の人の食文化―展	・古文書講座 ・見学会	4,796 人
3/20 5/6 (11日間) ※上記は 24 年度の日数	・世界を魅了した「青」浮世絵名品展 ―春信・歌麿の“露草青”写楽の“藍”北斎・広重の“ベルリンブルー” ・片岡家所蔵浮世絵	・オープニング記念展示解説会 ・ギャラリートーク ・多種多様な「青」で描く	1,241 人

【アートピクニック
―呼吸する美術】

【中世・近世の芦屋/近代の芦屋】



【具体躍進展/芦屋の画塾 芦屋のアトリエ展】

3. 事業実施計画書

期間	展覧会名	関連事業名	来館者数
3/20 5/6 (31日間) ※上記は25年度の 日数	・世界を魅了した「青」浮世絵名品展 —春信・歌麿の“露草青”写楽の “藍”北斎・広重の“ベルリンブルー” ・片岡家所蔵浮世絵	・オープニング記念展示解説会 ・ギャラリートーク ・多種多様な「青」で描く	9,877人
5/18 6/30 (38日間) ※「芦屋の歴史」 は12/23まで	・コレクション版画展 菅井汲／松谷武判 print works ・芦屋の歴史と文化財	・松谷武判 performance 「流動—Ashiya」 ・対談「版画の魅力—松谷武 判」/「版画の魅力—菅井汲」 ・こどもとおとなの美博ギャラリー ツアー「菅井さんと松谷さん」	3,061人
7/15 8/18 (30日間)	・学習雑誌にみるこどもの歴史	・オープニング記念展示解説会 ・ギャラリートーク ・大人も子どもも楽しめる見学会 「万博公園・太陽の塔 EXPO ツアー」	開催中
8/31 10/6 (32日間)	・アートピクニック vol.3 マイホーム ユアホーム		
10/19 11/24 (32日間)	・ゲンビ New era for creations 現代美術懇談会の軌跡 1952-1957		
12/7 12/23 (15日間)	・第62回芦屋市展		
1/11 2/9 (26日間)	・The Collection 具体円熟/終幕 ・昔の暮らし —和 WA 日本の伝統工芸品—		



【世界を魅了した「青」浮世絵名品展】



【学習雑誌にみるこどもの歴史】

3. 事業実施計画書

平成 26 年度 展覧会案

	第 1 展示室・第 2 展示室	歴史資料展示室	
4 月	「片岡家所蔵浮世絵展」	— 芦屋の歴史と文化財— 「物語と昔がたり」	
5 月			
6 月			
展示替期間			
7 月	「具体の国際性」	— 芦屋の歴史と文化財— 「徳本上人の軌跡」	
8 月			
9 月	展示替期間		
10 月	アートピクニック 「現代美術の展覧会」	— 芦屋の歴史と文化財— 「新たな発掘成果」	
11 月			
展示替期間			
12 月	コレクション展 「考古学による発掘成果」	— 芦屋の歴史と文化財— 「昔の暮らし展」	
1 月			
2 月			展示替期間
3 月			「造形教育展」

【展覧会詳細について(抜粋)】

◆「片岡家所蔵浮世絵展」

24 年度に開催し、好評を得た『世界を魅了した「青」浮世絵名品展』の続編として、今回は浮世絵の画題となる江戸時代の人々の風俗に着目し、新たな切り口で展示を行います。

◆「具体の国際性」

結成より活動における国際性を重要視していた「具体」を、その“国際性”という視点で再考し、海外の読者向けに発行された「具体」誌や海外作家の作品を展示します。

◆アートピクニック「現代美術の展覧会」

今期は、23 年度より行っている「ピクニック展」シリーズの「アウトサイダーアート」という枠に捉われず「美術で豊かな生活を感じる展覧会」として継続します。

◆コレクション展「考古学による発掘成果」

芦屋市内に点在する各遺跡の最新の発掘成果、その歴史的、地理的な位置づけについて芦屋市の学芸員の方と連携し、考察を加えて公開します。



【「考古学による発掘成果」
“鶏形埴輪”

※古墳時代金津山古墳出土 当館蔵】

【歴史資料展示室の展示について】

26 年度～30 年度に関しては「芦屋の歴史と文化財」をテーマに当館所蔵品を中心とした展示を行います。

◆「物語と昔がたり」

芦屋にまつわる物語文学である伊勢物語、昔話に関する歴史資料を展示します。

◆「徳本上人の軌跡」

江戸時代の浄土真宗僧侶、徳本上人に関する資料を展示します。

◆「新たな発掘成果」

本年の考古学による発掘成果の出土品を展示します。(次年度以降同じ)

3. 事業実施計画書

平成 27 年度 展覧会案

	第 1 展示室・第 2 展示室	歴史資料展示室
4 月	「芦屋市展」	—芦屋の歴史と文化財— 「芦屋と女性」
5 月		
6 月		
	展示替期間	
7 月	「こどもと学年誌」	—芦屋の歴史と文化財— 「美人画」
8 月		
9 月		
	展示替期間	
10 月	「阪神間洋画壇(近代)」	—芦屋の歴史と文化財— 「新たな発掘成果」
11 月		
12 月		
	展示替期間	
1 月	「前衛陶芸」	—芦屋の歴史と文化財— 「昔の暮らし展」
2 月		
	展示替期間	
3 月	「造形教育展」	

【展覧会詳細について(抜粋)】

◆こどもと学年誌

1 期目は小学生向けの学年誌を展示したので、今回は未就学児向けの雑誌、絵本をメインに展示します。

また、戦前・戦中・戦後の時代背景と学年誌に見る児童教育の関係を考察します。



【平成 25 年度

「学習雑誌にみるこどもの歴史」展示風景】

◆阪神間洋画壇物語

“近代”と“現代”の 2 部に分け、神戸、芦屋、西宮、尼崎といった阪神間の洋画壇の動向を紹介しながら、芦屋文化の再考察を図ります。(27 年度は“近代”、28 年度は“現代”の予定)

◆前衛陶芸

具体をはじめとする関西の前衛美術家たちと繋がりが深い「四耕会」、「走泥社」などの前衛陶芸の動向を探ります。

【歴史資料展示室の展示について】

◆「芦屋と女性」

芦屋の女性の暮らしをうかがうことのできる歴史資料を展示します。

◆「美人画」

当館寄託の片岡家所蔵浮世絵のうち、美人画を中心に展示します。

3. 事業実施計画書

平成 28 年度 展覧会案

	第 1 展示室・第 2 展示室	歴史資料展示室
4 月	コレクション展 「タイトル未定」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「芦屋におはします ほとけさま 1」
5 月		
6 月		
展示替期間		
7 月	「芦屋の歴史」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「芦屋におはします ほとけさま 2」
8 月		
9 月		
展示替期間		
10 月	「デモクラート美術家協会展」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「新たな発掘成果」
11 月		
12 月		
展示替期間		
1 月	「アートピクニック」 もしくは 「阪神間洋画壇物語(現代)」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「昔の暮らし展」
2 月		
3 月		
展示替期間		
3 月	「造形教育展」	

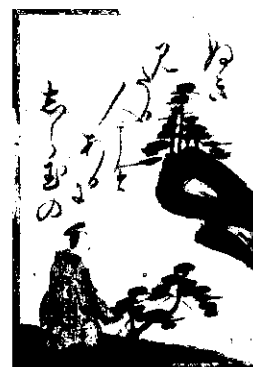
【展覧会詳細について(抜粋)】

◆ 芦屋の歴史

古代から現代に至るまでの芦屋の歴史を、貴重な絵画、文献等の資料をもとに紹介します。

◆ デモクラート美術家協会展

既成の公募展への出品、会友などの階級制度を拒否し、完全なデモクラート(民主主義者)としての活動を目指した同協会について特集します。



【「芦屋の歴史」】
“伊勢物語歌カルタ”
※江戸時代 当館蔵

【歴史資料展示室の展示について】

◆ 「みほとけのかたち～入門編～」

芦屋に存在する仏教寺院と仏教の基本知識について資料を交えながら紹介します。

◆ 「みほとけのかたち～応用編～」

「応用編」として、前回より一歩踏み込んだ芦屋の仏教に関する歴史資料を展示します。

3. 事業実施計画書

平成 29 年度 展覧会案

	第 1 展示室・第 2 展示室	歴史資料展示室
4 月	「芦屋市展」	—芦屋の歴史と文化財— 「大絵馬展」
5 月		
6 月		
7 月	「アートピクニック」、「会ヴァリエテ」、 「仏教美術」のいずれか	—芦屋の歴史と文化財— 「写された芦屋」
8 月		
9 月		
10 月	巡回展、小学館発行のマンガ関連、 日本画 等	—芦屋の歴史と文化財— 「新たな発掘成果」
11 月		
12 月		
1 月	「アートピクニック」、「会ヴァリエテ」、 「仏教美術」のいずれか	—芦屋の歴史と文化財— 「昔の暮らし展」
2 月		
3 月	「造形教育展」	

【展覧会詳細について(抜粋)】

◆会ヴァリエテ

会派を超え、自由な討論を行う研究会「会ヴァリエテ」の活動を紹介します。

◆新しいジャンルの展覧会

これまで取り上げたことのない新しいジャンル、テーマで注目度の高い展覧会を開催します。

現時点での候補としては、他美術館より知名度のある作家の作品を借りて行う巡回展、代表企業の関連会社である小学館発行の著名な漫画の作品展等を検討しております。

【歴史資料展示室の展示について】

◆「大絵馬展」

当館所蔵の芦屋市の神社に伝来した絵馬を展示します。

◆「写された芦屋」

大正から昭和、そして平成へと写真に写された芦屋の町並みをパネルで展示します。

3. 事業実施計画書

平成30年度 展覧会案

	第1展示室・第2展示室	歴史資料展示室
4月	「いけばなと前衛芸術の関わり」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「芦屋の建築」
5月		
6月		
展示替期間		
7月	「アートピクニック」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「描かれた芦屋」
8月		
9月		
展示替期間		
10月	「宗教美術(神道の美術)」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「新たな発掘成果」
11月		
12月		
展示替期間		
1月	「具体の野外性」	— 芦屋の歴史と文化財 — 「昔の暮らし展」
2月		
3月		
展示替期間		
3月	「造形教育展」	

【展覧会詳細について(抜粋)】

◆いけばなと前衛芸術の関わり

かつて陶芸界や絵画界との交流が盛んであった「いけばな」と芸術の交流を切り口に、戦後の美術の諸相を解明します。

◆宗教美術

これまで公開されることのなかった市内に点在する浄土真宗寺院の寺宝を展覧し、浄土真宗の中核寺院である大坂の石山本願寺との関係について考えます。

◆具体の野外性

芦屋公園での野外展、武庫川での廃墟展など美術館や展覧会場を飛び出して、野外で独創性豊かな「展覧会」を行った具体の活動を集めます。



【「宗教美術」
「摂津名所図会」
※寛政8(1796)～10(1798)年 当館蔵】

【歴史資料展示室の展示について】

◆「芦屋の建築」

仏教開館や、ヨドコウ迎賓館など芦屋に存在する建築に関する歴史資料を展示します。

◆「描かれた芦屋」

芦屋の町並みが描かれた絵画を展示します。

3. 事業実施計画書

(2)教育普及事業について

当館の大切な使命のひとつは、市民、そして利用者「自由な学びの場」を提供することだと考えます。市民、利用者が主体的に学び、暮らしに文化・芸術・伝統の彩りを添え、生き生きと人生を送るために、美術や歴史に関する事業はもちろん、その他多様なワークショップ、見学会等を、これまでに培った地域、市民団体との連携を最大限に活かしながら実施してまいります。

これまで当グループは様々な教育普及事業を企画し、年間を通じて幅広い年代の方々にご参加いただき、その声を都度、先の運営に活かしてまいりました。この実績をもとに、次期5年間に向けて、子どもからご年配の方まで、あるいは親子で、三世代で、一人でも、グループでも参加していただける講座やイベントを提供し、美術や歴史、その他様々な文化活動に触れるきっかけづくりを積極的に行ってまいります。

※ 以降に記載する教育普及事業例は大分類とし、これに従って、具体的実施計画は展覧会実施と併せて定めてまいります。

① 体験・学習・創作活動等への支援

余暇を充実させたいと考えている方や、芸術や歴史を新たな趣味として楽しみたいと思っている方などに対して、その入り口となる体験、学習、創作活動の場を提供し、様々なアプローチで支援活動を行います。

ア 芸術鑑賞のための事業

開催される展覧会の作品解説や、それに連動したワークショップなど、主体的に考え、楽しみながら体感することで芸術に対する興味や知識をより深めていただきたいと思います。

実施例)

担当学芸員が作品に関する作家の考えや制作背景などを解説し、見るだけではわからない情報や、解説パネルに書ききれなかった補足等も加えながら作品を紹介します。

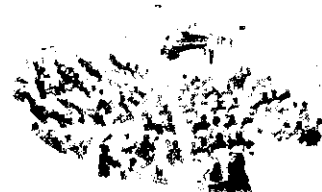
イ 芸術のなかの「音」に出会う事業

芸術鑑賞の中で、美術、歴史だけでなく「音楽」に関しても一つの位置づけとして楽しんでいただけるよう、広々としたホールや、貴重なピアノを活用したイベントを実施します。

実施例)

【ミュージアムコンサート】

市内で活躍する音楽家、学校の音楽系クラブ、サークル団体などをお招きし、展覧会のテーマ性、季節に沿った内容のコンサートを行います。



ウ 歴史に関する事業

当館の所蔵品や芦屋の歴史、資料の分析等について歴史専門学芸員が解説を行い、その理解を深めてもらう機会を提供します。

実施例)

【古文書講座】

当館学芸員あるいは有識者が講師となり、歴史資料に記されたかな文字、くずし文字などの解読法を解説し、どなたでも読めるように指導します。今後はシリーズ化して、内容の充実化を図ります。



3. 事業実施計画書

エ 創作に関する事業

絵画や書道、身近な材料を使った工作などのワークショップを通して、受講者の方に創作の楽しさを感じていただくきっかけ作りを行っています。

実施例)

【初心者のための水彩画体験講座】

絵具の使い方、濃淡の付け方など、水彩画の基本から講師が丁寧に指導します。



② 子どもを対象とした企画

市内の幼稚園、小学校、中学校と連携し、子どもの美術や歴史に対する興味を育てるような企画を行います。館内でのイベントにとどまらず、学校等に向向いての出前授業の実施など、館外でのアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでまいります。

ア 出前授業

芦屋市内の小中学校に向向き、当館で行われている展覧会に関連した内容を紹介したり、鑑賞の際の注意点などをレクチャーする出前授業を実施します。

一方的な解説に終わらず、どう感じたかということ聞き出す対話型の鑑賞を行い、子ども達の美術や歴史に対する感性を養うことを目的としています。

イ 子ども向けワークショップ

子ども向けのワークショップのねらいは、作品を上手く作る、理解するということにとらわれず、美術や歴史に対して興味を持ち、想像を広げ、楽しむということと考えております。子ども一人ひとりの個性を尊重しながら、枠を決めず自由に作ったり、考えたり感じたりすることを大事にしています。

実施例)

【こどもの哲学アトリエ】

絵を見て感じたことを話したり、周りの子どもの言葉を聞きながら絵の世界を探検する「ことば」と「目」の想像力を引き出す対話型のワークショップです。



ウ トライやる・ウィーク生の受け入れ

これまで毎年、「トライやる・ウィーク生」の受け入れを行い、受付、監視だけでなく、電話対応、館内アナウンス、資料の整理、館内の清掃など、幅広く美術博物館のお仕事について知ってもらい、働くことの意義を考えてもらう場を提供してまいりました。

また、美術博物館ならではのギャラリー・トークなどのイベントにも参加してもらい、美術や歴史への興味とともに、学芸員の仕事についても知ってもらう貴重な機会としています。今後も引き続きこの活動は積極的に行ってまいります。



【トライやるウィークの様子】

3. 事業実施計画書

③ 地域連携事業

当館の設置目的に沿った上で近隣の方々と連携したイベントを行うことで、当館が「貴重な市民交流の場」として認識され、活気ある芦屋市をつくりだすことを促進します。幅広く市民に文化交流の場として活用していただくと同時に、展覧会にも立ち寄っていただき、美術や歴史に対する興味を喚起する機会と考えています。

実施例)

【アートキャンドルナイト】

身近な材料でオリジナルのキャンドルを製作します。出来上がったキャンドルは LED ライトを入れて庭や館内に飾ることで、柔らかな「光」の芸術を感じていただき、近隣の方が自然と集まるイベントになっています。

【あしやアートバザール(年 2 回)】※自主事業として

手作りのアクセサリやバッグ、陶器など、数多くのオリジナルアートを
出展していただきます。同時にバルーンアートなどワークショップも開催し、活気あるイベントといたします。

【あしやアートバザールの様子】

④ その他

初年度より継続して博物館実習生の受け入れを行ってまいりました。平成 24 年度は近畿圏だけでなく沖縄や四国からの学生も含め 5 名の実習生を受け入れ、5 日間に亘って実習、指導を行いました。今後も引き続き、積極的に次世代の学芸員育成に力を入れてまいります。

【平成 24 年度 博物館実習日程】

		8/24	調書の作成、収蔵庫整理
8/22	ガイダンス、館内見学、課題	8/25	受付業務と課題準備、発表
8/23	掛け軸、巻子の扱い方、収蔵庫整理	8/26	ワークショップ準備、アシスタント

3. 事業実施計画書

4月	・「片岡家所蔵浮世絵」展 ギャラリートーク ・水彩画教室	・出前授業 「浮世絵に見る江戸時代の 人々の暮らし」 ・ハーモニカ講座	・アートバザール
5月	・古文書講座		
6月	・絵手紙講座		
7月	・「具体の国際性」展 ギャラリートーク／オープニ ングコンサート 等		・七夕関連イベント
8月	・アクセサリー作り	(夏休み宿題対策) ・芦屋の風景を描こう ・科学講座 等	・夏祭り
9月	・「現代美術の展覧会」ギャラ リートーク／制作現場巡り 等		・お月見会
10月	・ミュージアムコンサート	・出前授業 「『現代美術』ってなんだろう」 ・子どもの哲学アトリエ	・アートバザール
11月	・秋の芦屋を撮ろう		
12月	・「考古学による発掘成果」ギ ャリートーク／遺跡巡り等	・クリスマスカード製作 ・クリスマスソングを歌おう	・アートキャンドル ナイト
1月	・古文書講座	・書初め大会	
2月		・紙芝居作り	
3月	・芦屋の街歩き	・けん玉講座	

※平成 27 年度以降については、概要を別途「芦屋市立美術博物館 年度別事業計画書」に記述します。

3. 事業実施計画書

(3) 講演会・講習会について

講演会・講習会に関しては、展覧会の理解をより一層深め、来館者の視野を拓けるため、この3年間、展覧会関連事業として25回開催し、内容(テーマ、講師、会の形態、時期等)を検討しながら実施してまいりました。


今後の5年間も、参加者の声・ニーズを大切にして、より幅広く利用者が親しみやすく、わかりやすく学んでいただけの講演会・講習会を実施してまいります。

- ・「歴史分野」では、今後も芦屋市教育委員会の学芸員の方々と連携し、「考古学講座」として市内の最新の発掘成果等を中心に、定期的に講演していただく予定です。
- ・「美術部門」では、展覧会に関わる作家、関係者の講演会を中心に実施し、体験型ワークショップにも繋げていきます。

講演会・講習会の形態についても、「談話会」や「対談」、「美術遠足」、「町歩き」等工夫を凝らし、「美術や歴史分野に興味のある方々が知識を深めるために参加していただく」機会の拡充を図るとともに、一方で、「市民が気軽に参加し、新たに興味の芽を拓けていただけるような」企画を検討中です。

【これまでに実施した「講演会・講習会」抜粋】

～平成23年度～

展覧会名	講演会／講習会名	ジャンル	概要
アートピクニック 「美術をたのしむ」	「みんなの芸術-作品が生まれる現場からのお話」	アートーク	本展出品作家が所属する施設で、彼らをサポートしている方々のアートーク。
	「アートと宇宙」	講演会	内なる宇宙“アート”について考える哲学的な講演会。
	「見えない人が見える人のメガネになる!？」	鑑賞ワークショップ	見える人、見えない人、見えにくい人が作品を前に対話しながら行う鑑賞会。
	「赤ちゃんからの美術館 ～ぼかぼか ぶくぶく マイマイ～」	美術館ツアー	音楽パフォーマンス鑑賞後、バギーで美術館探検。
三田谷治療教育院 のあゆみ展	「女性教育のさきがけ -三田谷 啓の取り組み」	講演会	多くの講演会や展覧会、研究会などを通して、母性教育に取り組んだ三田谷啓の活動についての講演。
コレクション展Ⅲ	「芦屋の写真散策」	撮影会	芦屋川沿いを歩きながらプロのカメラマンと行う撮影会。作品は後日当館に展示。
	「建物のある風景散歩-芦屋の近現代建築」 	見学会	作品に描かれている近現代に建てられた芦屋の建物を実際に巡る。
	「ターナー色彩株式会社工場見学会」	見学会	絵具メーカーとして知られる同社の製造過程を見学。
阪神・淡路大震災 回顧展	「芦屋市の防災を考えよう」	講習会	芦屋の地形、立地から想定される災害や3・11を教訓とした津波についての説明。
昔の暮らし展	「家をまもる神さま仏さま」	講習会	神道や仏教において家内安全が祈られた信仰の歴史について当館学芸員が講義。


3. 事業実施計画書

～平成24年度～

展覧会名	講演会／講習会名	ジャンル	概要
アートピクニック 「呼吸する美術」	「欧米でも注目される 日本のアールブリュット、 その作品と作家の全容」	講演会	アールブリュットの教育や枠に 捉われない自由で不思議な 表現の謎について、作品画像 を紹介しながらレクチャー。
中世・近世の芦屋展	「心に残る 芦屋のむかしばなし」	講演会	ボランティア団体の「あしや 民話の会」の方々に「ぬえ塚」 など、芦屋にまつわる昔話を 語っていただく。
近代の芦屋展	「芦屋川と近代芦屋 －芦屋川が育んだ 文化的景観」	講演会	平成24年4月1日に芦屋市 の文化財に指定された「芦屋 川流域の景観」について講演 会を開催。
芦屋巡礼の路展	「飛鳥・白鳳・天平文化 期の芦屋 －芦屋廃寺周辺の考古 発見と仏教文化－」	講演会	芦屋廃寺やその周辺地域に おける発掘成果から、古代の 芦屋の様相について講演。
具体躍進展 芦屋の画塾展	「つみとられた果実 －その真相に迫る」	講演会	横尾忠則現代美術館 学芸 課長山本淳夫氏による講演。
	「芦屋のモダニズム」	講演会	京都国立近代美術館学芸課 長山野英嗣氏による講演。
	「あじのひらき」	ワーク ショップ	三次元から二次元への変化 で見えてくる世界を捉える
世界を魅了した青展	オープニング記念 展示解説会	解説会	「浮世絵展」共催である礪川 浮世絵美術館松井館長の解 説。
	「多種多様な「青」で描く ～喪失と再生の色ブルーに 癒されませんか？～ 	ワーク ショップ	ポストカードなどにブルーの陰 影で静物を描き、多種多彩な 「青」の絵具を楽しむ講座。

3. 事業実施計画書

～平成 25 年度～

展覧会名	講演会／講習会名	ジャンル	概要
世界を魅了した青展	「浮世絵と青」	講演会	当館学芸員による講演会。
	「青の文化史」	講座	当館学芸員による講座
コレクション版画展 「菅井汲/松谷武判 -print works」	「版画の魅力 —松谷武判」 	対談	「アトリエ 17」出身の松谷武判氏と神野立生氏、版画刷師の篠崎俊泰氏が版画の魅力について語る。
	「版画の魅力 —菅井汲」	対談	菅井汲氏の助手を務めたあまのしげ氏、菅井汲氏の版画作品を刷った松谷武判氏、菅井汲氏の版画展を担当した河崎晃一氏が版画の魅力について語る。
	「菅井さんと松谷さん」	ギャラリーツアー	小学 1 年生以上が参加できる「こども」と「おとな」のギャラリーツアー。松谷氏と担当学芸員がご案内。
学習雑誌にみる こどもの歴史 —90 年間の タイムカプセル—展	オープニング記念 展示解説会	解説会	担当学芸員による展示解説会。
	「万博公園・太陽の塔 EXPO ツアー」	見学会	万博公園(集合場所) → 太陽の塔(外観のみの観覧) → 国立民族学博物館を当館学芸員がご案内。
アートピクニック vol.3 マイホーム ユアホーム	「宮本家の公開家族会議」	トークイベント	実際の家族会議の様子を公開し、大学教員が解説する。
	「かたちを教えあって、 顔を描こう」	ワークショップ	親子や夫婦、兄弟など近い人がペアになってお互いの顔を描く。
	「博覧の宮殿と極小の私宅 —「境界なきアート」の神話	講演会	甲南大学の教授による講演会。
	「ウクレレ茶話会」	茶話会	ウクレレの演奏を聴きながら本展出品作家と交流する。
ゲンビ New era for creations 現代美術懇談会の 軌跡 1952-1957	ワークショップ、講演会 等 (詳細未定)		
・The Collection 具 体円熟/終幕 ・昔の暮らし —和 WA 日本の伝 統工芸品—	詳細未定		

3. 事業実施計画書

【平成 26 年度 講演会・講習会 年間計画案】

展覧会名	講演会／講習会名	ジャンル	概要
・片岡家所蔵浮世絵	「江戸時代の風俗について」	講演会	当館学芸員による講演会。
・物語と昔がたり	「浮世絵講座」	講習会	当館学芸員による講座。
・具体の国際性	「海外の人々と具体の交流について」	講演会	具体美術協会元会員の方をお招きし、海外の人々と具体の交流についてお話していただく。
・徳本上人の軌跡	「子どもから大人まで楽しめる“具体”」	ワークショップ	具体美術協会元会員の方による、年代を問わず楽しめる“具体”のワークショップ。
・アートピクニック 現代美術の展覧会 ・新たな発掘成果	「映像の表現について」	講演会	作家の方や学識者による「映像表現」についての講演。
	「音の表現について」	講演会	作家の方や学識者による「音の表現」についての講演。
	「映像制作」	ワークショップ	作家の方を講師に、ひとつの映像を参加者全員で作り上げ、出来上がった作品は当館で上映する。
	「作家による対談」	トークショー	出品作家の方達によるトークショー。制作の過程や苦労話を聞く。
・コレクション展 考古学による発掘成果 ・造形教育展 ・昔の暮らし	「芦屋の発掘状況について」	解説会	芦屋市の最新の発掘成果を芦屋市教育委員会学芸員の方に講義いただく。
	「考古学講座」	講習会	古代日本史の中の畿内における「芦屋」の位置づけについて講義する。
	「昔の暮らしを体験しよう」	講習会	ご年配のボランティアの方にご協力いただき、昔の生活道具の使い方等を教えていただく。

※平成 27 年度以降については、概要を別途「芦屋市立美術博物館 年度別事業計画書」に記述します。

		平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度			
第1・第2展示室 展覧会名	歴史資料展示室	「片岡家所蔵浮世絵」	「具体的国際性」	「現代アートビクニック」	「考古学による発掘成果」 「造形教育展」 「アートビクニック」 「考古学による発掘成果」	「芦屋市展」 ※平面・写真 各1カ月	「こどもと学年誌」	「阪神間洋画壇（近代）」	「前衛陶芸」	「造形教育展」	コレクション展	「芦屋の歴史」	「デモクラート 美術家協会」	「アートビクニック」 「阪神間洋画壇（現代）」	「芦屋市展」 ※平面・写真 各1カ月	「アートビクニック」 「会 ヴァリエテ」 「仏教美術」 「いづれか ずれか」	巡回展、小学館発行の マンガ関連、日本画 等	「いけばなど前衛芸術の関 わり」	「アートビクニック」	「（神道の美術）」	「造形教育展」 「具体的野外性」
		「物語と昔がたり」	「徳本上人の軌跡」	「新たな発掘成果」	「昔の暮らし」	「芦屋と女性」	「美人画」	「新たな発掘成果」	「昔の暮らし」	「昔の暮らし」	「芦屋におはします ほとけさま 1」	「芦屋におはします ほとけさま 2」	「新たな発掘成果」	「昔の暮らし」	「大絵馬」	「写された芦屋」	「新たな発掘成果」	「昔の暮らし」	「芦屋の建築」	「描かれた芦屋」	「新たな発掘成果」
		講演会 「江戸時代の 風俗について」	講演会 「海外の人々と 具体の交流に ついて」	講演会 「映像の表現 について」	講演会 「芦屋の発掘 状況について」	講演会 「芦屋の女性 今昔」	ワークショップ 「浮世絵講座」	講演会 「近現代美術 史について」	講演会 「作家が語る 『前衛陶芸』」	講演会 「作家が語るコ レクション展」	講演会 「芦屋の今昔」	講演会 「デモクラート 美術家協会 の足跡」	講演会 「阪神間 洋画壇の今」	ワークショップ 「絵馬を作ろ う」	講演会 ※上記いづれ かの内容によ る	講演会 ※上記いづれ かの内容によ る	講演会 ※上記いづれ かの内容によ る	講演会 「いけばなど前 衛芸術の関わ り」	講演会 「作家による 講演会」	講演会 「芦屋の 神道美術」	講演会 「具体と野 外の関係」
		講習会 「浮世絵講座」	ワークショップ 「子どもから大 人まで楽しめる “具体”」	講演会 「音の表現に ついて」	講習会 「考古学講 座」	ワークショップ 「大人の学 習誌が できるまで・制 作現場を訪ね	ワークショップ 「浮世絵講座」	ワークショップ 「陶芸に挑 戦」	ワークショップ 「作家による 『前衛陶芸』」	見学会 「芦屋の建築 物を見に行こ う」	座談会 「芦屋の思い出 を語ろう」	講演会 「デモクラート の作家たち」	トークショー 「作家による トークショー」	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ 「いけばな体 験」	見学会 「制作現場 見学会」	講習会 「神道美術 講座」	見学会 「具体の現場 に行ってみよ う」	
				トークショー 「作家による 対談」	ワークショップ 「昔の暮らし を体験しよう」	ワークショップ 「大人の 付録作成教室」	美術遠足 「作家ゆかり の地・阪神間・ を巡ろう」	ワークショップ 「昔の暮らし を体験しよう」	ワークショップ 「作家による 『前衛陶芸』」	撮影会 「芦屋を撮ろ う」	ワークショップ 「デッサン 教室」	ワークショップ 「作家による 『前衛陶芸』」	見学会 「制作現場 見学会」	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ ※上記いづれ かの内容によ る	ワークショップ 「彫刻の人物に なりきって みよう」	ワークショップ 「神道美術 マップ制作」	ワークショップ 「昔の暮らし を体験しよう」		
芸術鑑賞 音楽・歴史 制作	教育普及事業	ギャラリートーク(各展覧会ごと)				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜			
		古文書講座	オープニング コンサート	ミュージアム コンサート	古文書講座	・マンガ講座・紙すき講座・食育講座 ・大人の科学教室・キャンドルカバー作り ・歴史講座・ペン字・ハンドベル・合唱 等	・マンガ講座・紙すき講座・食育講座 ・大人の科学教室・キャンドルカバー作り ・歴史講座・ペン字・ハンドベル・合唱 等	・マンガ講座・紙すき講座・食育講座 ・大人の科学教室・キャンドルカバー作り ・歴史講座・ペン字・ハンドベル・合唱 等	・マンガ講座・紙すき講座・食育講座 ・大人の科学教室・キャンドルカバー作り ・歴史講座・ペン字・ハンドベル・合唱 等												
地域連携 その他		出前授業				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜				26年度実施のイベント、講座に加えて以下を適宜			
		ハーモニカ講座	夏休み宿題 対策講座 ・芦屋の風景 を描こう	子どもの哲学 アトリエ	けん玉講座	・1日学芸員体験・美術館探検・マンガ講座 ・メンコ遊び体験・芦屋の遺跡マップ作り ・写生大会・書き初め大会 等	・1日学芸員体験・美術館探検・マンガ講座 ・メンコ遊び体験・芦屋の遺跡マップ作り ・写生大会・書き初め大会 等	・1日学芸員体験・美術館探検・マンガ講座 ・メンコ遊び体験・芦屋の遺跡マップ作り ・写生大会・書き初め大会 等	・1日学芸員体験・美術館探検・マンガ講座 ・メンコ遊び体験・芦屋の遺跡マップ作り ・写生大会・書き初め大会 等												
		アート バザール	・七夕祭り ・夏祭り	・お月見会 ・アート	アート キャンドルナイ ト	アート バザール	・七夕祭り ・夏祭り	・お月見会 ・アート	アート キャンドルナイ ト	アート バザール	・七夕祭り ・夏祭り	・お月見会 ・アート	アート キャンドルナイ ト	アート バザール	・七夕祭り ・夏祭り	・お月見会 ・アート	アート キャンドルナイ ト	アート バザール	・七夕祭り ・夏祭り	・お月見会 ・アート	アート キャンドルナイ ト
		博物館実習生の受け入れ																			

3. 事業実施計画書

(4)美術博物館資料の調査及び研究について

①方針について

学芸員は資料収集から展示、調査研究、保存、教育普及まで幅広い業務をおこない、市民にわかりやすく伝える役割を持っています。また、「当館所蔵資料が人々にとってどのような価値を持っているのか」を理解するための専門的知識・経験と、それを表現し、伝える高いコミュニケーション能力と表現力が求められます。

当グループの3年間の運営期間においては、それぞれの業務に関して3名の学芸員が展示・教育普及を発表の場として企画・開催してまいりました。こういった場で市民、利用者が当館から伝わる知識を受け取ることで「知識が深まる」、「豊かな感性が育つ」、「物事を見る視野が広がる」といった、「人間成長」の機会を得ることを一つの意義として価値のあるものと認識しております。

また同時に、当館が蓄積する調査・研究データ、あるいは有機的な「人との繋がり」-利用者・作家・遺族・他館学芸員の方々をはじめとした関係者との信頼関係は、後世に亘って当館ならびに芦屋市の貴重な財産になると考えております。今後は各種大学等の研究機関、他館等との連携など多岐にわたる支援体制を図ることで美術博物館ならびに芦屋市の文化のさらなる発展に寄与いたします。

改めて「文化遺産の継承」を大切な使命として認識し、より「正確に」「わかりやすく」市民に伝え、また、次世代に遺していくための取組として、下記の方向性に沿った調査及び研究に努めてまいります。



当館には、芦屋ゆかりの作家を中心に、小出楯重と関連作家たち、具体美術協会会員による作品、ハナヤ勘兵衛をはじめとした芦屋 カメラクラブの作品等、近現代美術作品が多く収蔵されています。

継続して作品の調査研究をおこない、作品が持つ情報を新たに発見し更なる価値を構築し、論文や展覧会等で発表することで、市民に芦屋の文化をより一層知っていただけるよう、調査研究に努めます。

また、これまでに培った信頼関係をさらに強化し、作家や遺族の方をはじめとした関係者との関係構築に努めます。



当館には、古代では「会下山遺跡」、近世では「大阪城の石垣」、「西国街道」、そして近代では「阪神間モダニズム」をテーマとした資料が際立っていますが、全体的に見ると中世の資料が不足しております。

古代から近代まで一貫した歴史としての資料価値を高め、連続した芦屋の歴史を学ぶことができる展覧会の開催に力を入れていくためにも、今後は中世の資料の収集にも力を入れることをご提案します。

同時に周辺の歴史資料を有している市民の方々、施設や大学等研究機関との連携、県下の博物館との連携により資料の相互補完を目指します。

成果を芦屋市の財産として遺し、次世代に伝える

3. 事業実施計画書

②実績とこれからの具体的取組について

他館・団体との連携

- ・当館から収蔵品を貸出した「Gutai Splendid Playground」展(ソロモン・R・グッゲンハイム美術館)報告会を、同展キュレーターのアレクサンドラ・モンロー氏、ミン・ティアンポ氏を招へいして開催しました。
- ・阪神間の美術館、大学等研究機関と連携した展覧会の実施等、共同調査・共同発表の場を設けます。

ボランティアとの協働

- ・大学生・大学院生等ボランティアを募り、当館学芸員指導のもと、所蔵品資料の整理や台帳の作成、イベント企画の準備等を進めてまいります。

助成金の活用

- ・平成25年度は展覧会の実施にあたり、各種助成金・協賛金をいただきました。今後も調査・研究を深め、データを発表する場を拡大するためにも積極的に活用いたします。

資料・データの整理

- ・美術作品、ならびに関連資料にはポジと紙ベースの記録写真がありますが、今後は貴重な研究資料として有効に活用するために、これらを整理し、データベース化する作業をおこなってまいります。
- ・具体美術協会元会員、ご遺族、関係者に聞き取り調査をおこない、より研究を深化させ、展覧会等の場で発表いたします。
- ・歴史資料は展覧会実施に併せて、制作年代の判定など基本情報の収集を重ねてまいりました。現在ご寄贈頂いている市民の方々のご所蔵品についても、引き続き詳細な伝来の聞き取りを行います。
- ・今後も引き続き、より多くの情報整備を市・生涯学習課学芸員と連携を図り、文化財指定の協議に有用な情報を提供をします。また、そのための場のひとつとして、月に1度の歴史・考古学連携会議(仮)の設定をご提案いたします。

研究者への協力

- ・引き続き当館所蔵資料の研究者に対して資料閲覧、作品調査の機会を提供し、当該作品・資料の研究に資します。閲覧、調査にあたっては然るべき判断基準を持って丁寧な対応に努めております。

研究成果の公表

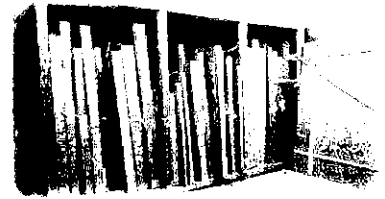
- ・調査・研究の報告については研究論文、紀要、年報、寄稿として発表いたします。 **【作成図録】**
- ・平成24年度より、実施展覧会の図録を作成し、データの蓄積に努めてまいりました。今後も積極的に取り組んでまいります。

3. 事業実施計画書

(5)美術作品・歴史資料の保管・貸し出し・借受について

貴重な文化遺産である収蔵品の展示は当館が果たすべき重要な「教育的役割」のひとつです。また、展示は市民・来館者の理解を得ることのできる貴重な機会であるとともに、研究報告を発表する場でもあります。

しかし一方で、作品・資料を公開することによって損傷や劣化のリスクが増加するため、展示をはじめとして所蔵品の保管、貸出し、借受については、慎重に考えていかなければなりません。とりわけ、芦屋市立美術博物館の収蔵品には具体美術協会会員による特殊な形状の作品や、巨大な作品、小出権重のガラス絵のような繊細な作品も多く、保管・貸出しについて細心の注意を払う必要があります。原則、指示監督を行うのは学芸員のみとします。



①美術作品・歴史資料の保管に関して

下記の点に留意して、作品の損傷・劣化を防ぐ保管状況に努めます。

収蔵庫における管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保存場所は整理整頓し、作品を傷めることなく運び出せるように留意します。また、作品同士が接触しないように気をつけます。 ・作品を運び出す場合は梱包の必要性を検討し、作品の形状、状態に合わせた梱包方法を十分に検討します。 ・収蔵庫内を適温・適湿に保つべく、空調設備の運転状況の監視等を徹底します。 ・部外者が立ち入れないよう、施錠・監視を徹底いたします。 ・お客さまに配慮しながら、最適な温湿度を設定し、作品の状態を安定させます。 ・照明については、東京文化財研究所の規程に基づき、水彩・版画・日本画等の紙作品は 50 ルクス以下、油絵などは 150 ルクス前後に照度を調節いたします。 ・作品の形状や状態に合わせた展示方法を、専門業者と協議の上採用します。 ・展示時は適切な監視員を配置します。 ・常設展示物の見回りや展示替えの際に、作品の状態を確認し、変化があった場合は直ちに芦屋市教育委員会に報告し、修復の有無を検討します。
展示中における管理	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的衝撃を与えないように注意し、作品の状態を安全に保ちます。 ・専門業者による輸送運搬の際は、専門学芸員が十分な打合せと立ち会いを行い、且つ輸送時は学芸員が同乗するなど、事故のないよう努めます。
運搬時における管理 (館外輸送含)	

【平成 23 年度以降修復実績】

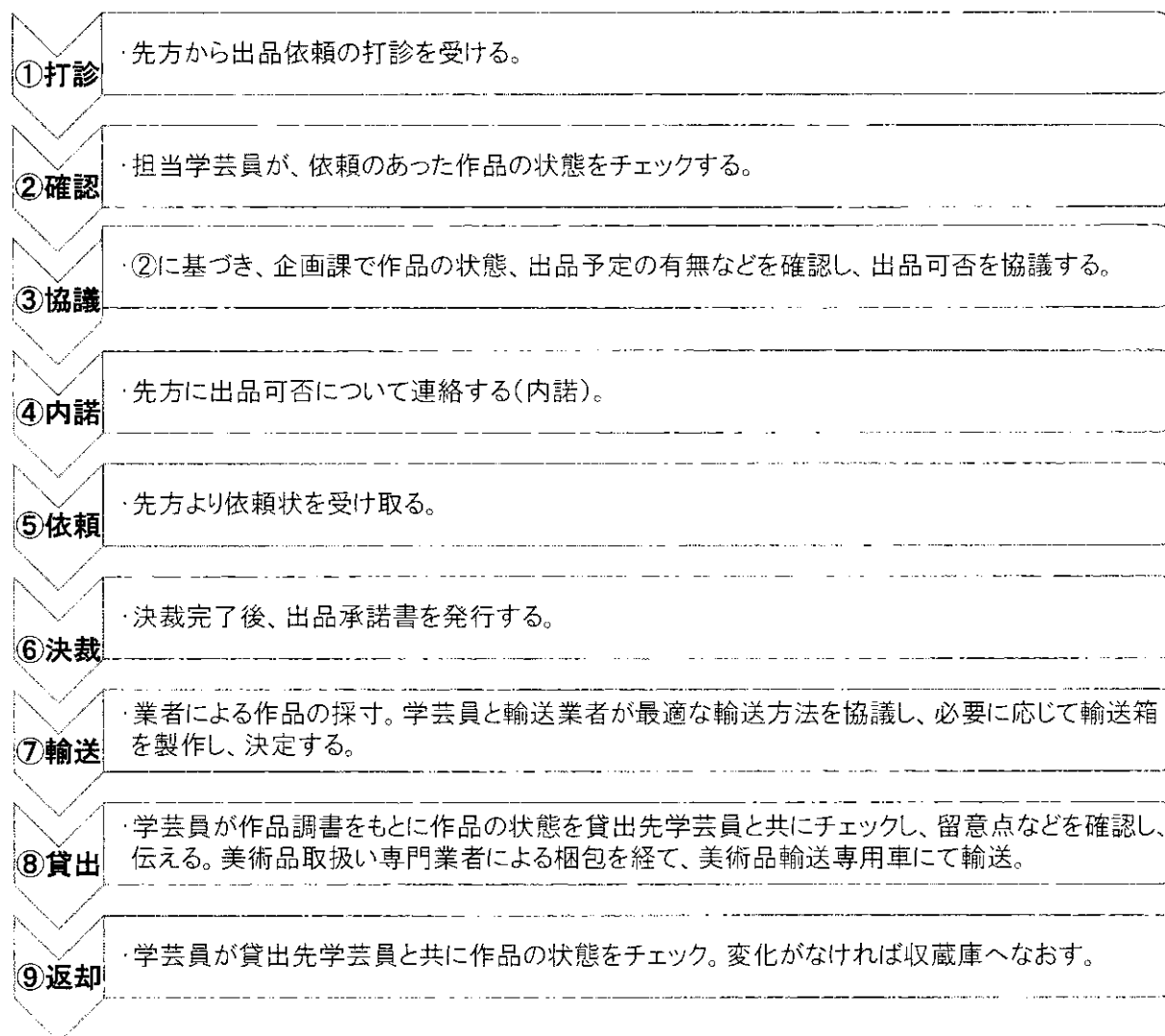
田中敦子 <<Spring, 1966>> 1966 年:田中 信至氏による修復。作品を回転させる台座のモーター部分を修復。(2012 年)
聴濤襄二 <<作品>> 1968 年:株式会社伏見工芸による修復。モーター部分の取り換え、モーター連動部分のゴム、及び内部水銀灯の取り換え。(2012 年)
吉田稔郎 <<作品>> 1956 年:中井久代氏によるスレ発生個所の修復。(2012 年)
名坂千吉郎 <<SELVOLINE>> 1967 年:中井久代氏による剥落箇所の修復。(2012 年)
吉田稔郎 <<アカ>> 1954 年:株式会社絵画保存研究所による修復。画面の割れと浮きあがりの剥落止めを行った。財団法人文化財虫害研究所によるカビ殺菌。(2012 年)
今井祝雄 <<白のイベント I、II>> 1965 年:株式会社 YTT による修復。ラバー部分取り換え、作品台座の嵩上げ。(2013 年)
【作品状態調査】嶋本昭三<<作品>>(1954 年)にカビの発生が疑われたため東京文化財研究所にて調査。調査の結果カビは認められなかったため、処置は行わなかった。

3. 事業実施計画書

②貸出しに関して

他館から貸出依頼があった場合は、市に確認の上、下記の手続きをおこない、速やかに対応いたします。

美術品の貸出手順



【平成 23 年度以降主な貸出し実績 * 抜粋】

展覧会名	貸出先	貸出期間
田中敦子アート・オブ・コネクティング展	東京都現代美術館ほか 英国、スペイン巡回	2011年7月～2012年5月
坪内晃幸―追求めた「具体」展	久万美術館	2011年10月～11月
津高和一架空通信展	西宮市大谷記念美術館	2011年10月～11月
「具体」ニッポンの前衛 18年の軌跡	国立新美術館	2012年7月～9月
Destroy the picture Painting the Void	ロサンゼルス現代美術館、シカゴ現代美術館	2012年9月～2013年2月
小磯良平の世界展	神戸市立小磯記念美術館ほか巡回	2012年10月～2013年6月
Gutai-Splendid playground	グッゲンハイム美術館	2013年2月～5月
関西学院の美術館 ～知られざる神戸のモダニズム	小磯記念美術館	2013年7月～10月
ヴェネツィア展	一宮市三岸節子記念美術館	2013年10月～11月

3. 事業実施計画書

③借受に関して

他館から作品を借り受ける場合は、下記の手続きをおこないます。

①打診

・作品の所蔵元に、出品依頼の打診をする。

②依頼

・所蔵元から内諾が得られたら、依頼状を提出する。

③承諾

・出品承諾書を受領する。

④指示

・業者による作品の採寸。所蔵元に輸送箱、輸送方法を指定してもらう。

⑤輸送

・学芸員が作品調書を作成する。作品の状態・留意点などを、所蔵元の学芸員と確認する。美術品取扱い専門業者が梱包し、学芸員同乗の美術品輸送専用車にて館まで輸送する。

⑥保管

・館の収蔵庫において、展覧会まで厳重に保管する。

⑦展示

・学芸員立ち会いの下、拝借作品を開梱する。美術品取扱い専門業者が作品展示作業を行う。

⑧撤去

・学芸員立ち会いの下、美術品取扱い専門業者が作品展示撤去作業および梱包を行う。

⑨返却

・学芸員同乗の上、美術品輸送専用車にて輸送する。学芸員が貸出先学芸員とともに作品の状態チェックをし、返納する。

【ファシリティレポートについて】

作品の出庫と受取

2.14 拝借作品の受取時間： 平日、土日共に9時から18時まで

2.15 設備

- 搬出入用のドア(シャッター) 寸法：高さ 4.43 m 幅 5.25 m
- 積み下ろし用プラットフォーム 地面からの高さ 60 cm
- フックレベラー(昇降機) 耐荷重量 _____ kg
- フォークリフト 耐重量 2000 kg
- 油圧式ハンドトラック(昇降機) 耐重量 _____ kg
- クレーン 耐重量 _____ kg
- ランプ(地面から積み下ろしへの高さ) 4.6 m
- 足場 _____

2.16 搬出入場への避難： 有 無(関係者以外立ち入り禁止)

2.17 荷受場への立ち入り制限方法： 施錠

2.18 荷積み、荷降ろしエリアの屋根： 有 無

作品を借受ける際に、館の状況等について十分に確認していただき、信頼関係のもとで厳重にお預かりするために、「ファシリティレポート」を作成いたしました。職員体制等の一般事項、実績、作品確認者、輸送展示/設置業者、建物構造、展示環境、搬出入場環境、収蔵環境、設備、緊急時(防火、防犯)等の詳細な情報について設備管理者と確認の上作成したこの情報をもとにスムーズな借受け手続きをおこなっております。